

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学教室の

ヘルスコミュニケーション学教育の概要

木内貴弘 石川ひろの

東京大学 大学院医学系研究科 医療コミュニケーション学分野

抄録

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学教室は、平成19年度に東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻（専門職課程修士）に設置された。現在、主として公共健康医学専攻の修士課程学生を対象に「医療コミュニケーション学講義」、「医療コミュニケーション学実習」を実施している。その特徴は、まず第1に将来医療・公衆衛生の様々な分野に進む人のために、ヘルスコミュニケーションの各分野を幅広く教育していること、第2にヘルスコミュニケーション実践、指導等を行っている実務家に多くの講義・実習を依頼していること、第3に各々のコミュニケーション理論・技法の違いよりも、共通性を強調することによって、多様に見える講義・実習の背景に共通するコミュニケーションというものの本質を理解できるように配慮していることにある。対人、メディアコミュニケーションのバランスの取れた日本における標準的なヘルスコミュニケーション学教育カリキュラムをつくり、その学問の領域を明確にするために試行錯誤を続けている。

上記の他、医療コミュニケーション学を専門とする博士課程大学院生、研究生、及び公共健康医学専攻（専門職課程修士）等の参加希望者を対象に毎週木曜日の午前、午後に輪読会・抄読会を実施している。午前には、基本的なヘルスコミュニケーション学教科書の輪読と論文1件抄読（精読）を行っている。午後には、やや専門的なヘルスコミュニケーション学の書籍の輪読と論文3本抄読（多読）を行っている。

1.はじめに

東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学（以下、東大医療コミュニケーション学）分野は、平成19年度に東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻（専門職修士課程）に設置された。医科系では、九州大学につづき、日本で2番目である。尚、平成20年度には、京都大学に医学コミュニ

ケーション学分野が設置されている。

東大医療コミュニケーション学分野では、公共健康医学専攻（専門職修士課程）の大学院生を対象に「医療コミュニケーション学講義」、「医療コミュニケーション学実習」を実施している。他の専攻の大学院生も何人か受講している。これらの他、医療コミュニケ

ーション学を専門とする博士課程大学院生、研究生、及び公共健康医学専攻（専門職課程修士）等の参加希望者を対象に毎週木曜日に輪読会・抄読会を実施している。本稿では、上記の東大医療コミュニケーション学分野のヘルスコミュニケーション教育の内容について概説し、考察を行う。

2. ヘルスコミュニケーション学教育の内容

2.1 医療コミュニケーション学講義

医療コミュニケーション学講義は、大きく、総論（3回）、対人コミュニケーション（5回）、メディアコミュニケーション（4回）、対人・メディア総合（4回）の4つに区別される（表1）。

総論は、ヘルスコミュニケーション学全般についての総論的講義を「コミュニケーション学入門」、「医療コミュニケーション学入門」、「ソーシャルマーケティング」の3つに分けて著者が行っている。

対人コミュニケーションでは、主として医療従事者・患者コミュニケーションについて、「医療機関の立場から」と「患者の立場から」の講義の他、医療者側の「医療コミュニケーション実践法」について講義がなされる。「医療機関の立場から」では、東京大学医学部附属病院（東大病院）総合研修センター長で、実際に東大病院の臨床研修システムを統括している北村聖教授に講義を御願している。

「患者の立場から」は、NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML の辻本好子氏に講義をしていただいている。COML は、患者側の立場から、患者からの各種電話相談、患者教育を実施してきた。近年は、医療崩壊に伴い医療者側からの相談も受けている。医療者

側の「医療コミュニケーション実践法」については、日本ヘルスサイエンスセンターの石川雄一氏に演習を大きく取り込んだ形の講義をしていただいている。

メディアコミュニケーションでは、「新聞」、「テレビ」、「インターネット」についての実務を長く経験した講師によって講義が行われる。新聞（小畑洋一氏）、テレビ（真崎理香氏）は、各々新聞記者、テレビディレクターとして、活躍してきた実務家である。インターネットを担当する木内（著者）は、医学・医療関係者向けの大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）の実務責任者として、長い実務経験がある。

対人・メディア総合では、対人・メディアの両方を用いたコミュニケーションについての講義を行っている。「医療コミュニケーション研究の方法論と臨床・教育への応用」では、石川（著者）が研究と実務の橋渡しについての話を行っている。

「健康キャンペーン」では、広告代理店に長く勤務し、現在 AC ジャパン（旧：公共広告機構）専務理事をつとめる草川衛氏が実践的な講義を行っている。「医療専門家相互のサイエンスコミュニケーション」では、長年の大学での研究経験を持つ著者が、講義を行っている。「災害・緊急時のコミュニケーション」は、この分野で研究実績のある青木則明テキサス大学准教授が講義をしている。

2.2 医療コミュニケーション学実習

「医療コミュニケーション学実習」は、大きく対人コミュニケーション実習、メディアコミュニケーション実習に区分される（表2）。対人コミュニケーション実習では、「コーチング実習」、「接遇実習」、「MBTI によるコミュニケーション実習」を実施してい

表1. 医療コミュニケーション学講義一覧(平成22年度)

*実際の講義は、講師の日程の都合等で、この順番とおりに実施したわけではない。

回数	内容	担当
1	I. 医療コミュニケーション学総論 コミュニケーション学入門	木内貴弘
2	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学概論	木内貴弘
3	I. 医療コミュニケーション学総論 ソーシャルマーケティング	木内貴弘
4	II. 対人コミュニケーション 医療従事者・患者コミュニケーション (1)-医療機関の立場から	北村聖 (東大病院 総合研修センター)
5	II. 対人コミュニケーション 医療従事者・患者コミュニケーション (2)-患者の立場から(その1)	辻本好子 (COML)
6	II. 対人コミュニケーション 医療従事者・患者コミュニケーション (3)-患者の立場から(その2)	辻本好子 (COML)
7	II. 対人コミュニケーション 医療従事者・患者コミュニケーション (4)-医療従事者のための医療コミュニケーションの実践法(1)	石川雄一 (日本ヘルス サイエンスセンター)
8	II. 対人コミュニケーション 医療従事者・患者コミュニケーション (5)-医療従事者のための医療コミュニケーションの実践法(2)	石川雄一 (日本ヘルス サイエンスセンター)
9	III. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (1)テレビ	真崎理香 (財団法人放送番組 国際交流センター、 NHK)
10	III. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (2)新聞	小畑洋一 (読売新聞)
11	III. メディアコミュニケーション インターネット	木内貴弘
12	IV. 対人・メディア総合 医療コミュニケーション研究の方法論と 臨床・教育への応用	石川ひろの (滋賀医大)
13	IV. 対人・メディア総合 健康キャンペーン	草川衛 (公共広告機構)
14	IV. 対人・メディア総合 医療専門家相互のサイエンスコミュニケーション	木内貴弘
15	IV. 対人・メディア総合 災害・緊急時のコミュニケーション	青木則明

る[1]。MBTIは、Myers-Briggs Type Indicatorの略であり、ユング心理学に基づいた16の類型に各個人を区分することにより、お互いの心理学的な癖の違いを理解することによって、良好なコミュニケーションをはかることを目指している。各々の実習は、各々の対人コミュニケーション理論・技法の研修指導を専門に行っている方に実習を依頼している(表2)。メディアコミュニケーション実習は、著者自らが実施している。「新聞実習記事執筆・分析」では、前半に、実際に行われた記者会見を再現し、学

生に新聞記者になったつもりで、新聞の記事を執筆してもらい、実際に新聞記者の書いた本物の記事と比較・検討をおこなっている。後半には、新聞やインターネットの医療系のニュースを分析して、そのエビデンスについての評価を実施している[2]。「映像メディアの制作法と撮影実習」では、映像メディアの特性や作成の方法について一通り話した後、小さなドラマの製作・撮影を実施している。2回にわたる「インターネット実習」では、Blog、Wikiを用いて、コンテンツの作成法を実習している。

表2. 医療コミュニケーション学講義一覧(平成22年度)

*実際の講義は、講師の日程の都合等で、この順番とおりに実施したわけではない。

回数	内容	担当
1	I. 対人コミュニケーション実習 接遇実習	宮本朋子 (JALアカデミー)
2	I. 対人コミュニケーション実習 コーチング実習	鱸伸子 (オフィスセレンディピティ)
3	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づくコミュニケーション術 (1)	園田由紀 (日本MBTI協会)
4	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づくコミュニケーション術 (2)	園田由紀 (日本MBTI協会)
5	II. メディアコミュニケーション実習 新聞記事執筆・分析	木内貴弘
6	II. メディアコミュニケーション実習 映像メディアの制作法と撮影実習	木内貴弘
7	II. メディアコミュニケーション実習 インターネットコミュニケーション実習 (1)	木内貴弘
8	II. メディアコミュニケーション実習 インターネットコミュニケーション実習 (2)	木内貴弘

2.3 医療コミュニケーション学輪読会・抄読会

医療コミュニケーション学を専門とする博士課程大学院生、研究生、及び公共健康医学専攻(専門職課程修士)等の参加希望者を対象に、

毎週木曜日の午前、午後に輪読会・抄読会を実施している。午前には、基本的なヘルスコミュニケーション学教科書の輪読と論文1件抄読(精読)を行っている(合計約2時間)。午後

には、やや専門的なヘルスコミュニケーション学の書籍の輪読と論文3本程度抄読（多読）を行っている（合計約2時間）。表3に午前の輪読会で輪読した書籍の一覧、表4に午後の輪読会で輪読した書籍の一覧を示す。

3. 考察

3.1 医療コミュニケーション学講義、

医療コミュニケーション学実習

医療コミュニケーション学講義、医療コミュニケーション学実習のカリキュラム開発に当たって努力した点は下記の3点である。

(1) 講義・実習範囲の幅広さ

将来医療・公衆衛生の様々な分野に進む人のために、ヘルスコミュニケーションの各分野を幅広く教育している。その理由は、専門職修士

課程（公共健康医学専攻）の講義、実習として企画されたことによる。公衆衛生・医療の第一線の実務につく人に向けて、ヘルスコミュニケーションを幅広く身につけてもらうことが目的だからである。また講義・実習の内容は、ヘルスコミュニケーション学の分野の取り扱う範囲の概要を示すものとなっている。

(2) 実務家の教育への参加

ヘルスコミュニケーション実践、指導等を行っている実務家に多くの講義・実習を依頼している。その理由は、やはり専門職修士課程（公共健康医学専攻）の講義、実習として企画されたことによる。実務を教育するためには、やはり実務家が必要である。

表3. 医療コミュニケーション学症読会・輪読会 I（木曜日午前10時－12時）輪読書一覧

輪読開始年月	輪読した書籍の書誌情報
2008/04	Glanz K, Rimer BK, Lewis FM (editors). Health Behavior and Health Education – Theory, Research, Practice 3rd edition, 2002
2008/09	John W. Creswell. Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches, 2008
2009/01	Athena du Pre. Communicating about health – Current Issues and Perspectives 2nd edition, 2005
2009/04	Philip Kotler, Nancy R. Lee. Social Marketing: Influencing Behaviors for Good. Saga Publications 2007.
2009/09	Parker JC, Thorson E. Health Communication in the New Media Landscape. Springer Publisher. 2009.
2010/04	Athena Du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives 3rd edition. Oxford Univ. Press 2009

表4. 医療コミュニケーション学症読会・輪読会Ⅱ(木曜日午後1-3時)輪読書一覧

輪読開始年月	輪読した書籍の書誌情報
2007/04	Thompson TL, Dorsey A, Miller K, Parrott R. Handbook of Health Communication (Lea's Communication Series), 2003
2007/09	Schiavo R. Health Communication Health -Communication: From Theory to Practice, 2007
2008/04	Mattelart A, Mattelart M. Theories of Communication - Short Introduction 4th edition, 1998
2008/09	Ron Cody. Learning SAS by Example: A Programmer's Guide, 2007
2009/04	Arvind Singhal. Entertainment Education - A Communication Strategy for Social Change, 1999.
2009/09	Anthony Giddens. Sociology(6th edition), 2009
2010/04	Glanz K, Rimer B, Viswanath K. Health Behavior and Health Education: Theory, Research, and Practice,

(3) 各種コミュニケーション理論・技法の共通点の特徴

総論において、各々のコミュニケーション理論・技法の違いよりも、共通性を強調することによって、多様に見える理論・技法の背景に共通するコミュニケーションというものの本質を理解できるように配慮していることにある。コミュニケーションには、1対1の個人間コミュニケーションから、インターネット、マスメディア等を介した数百万人以上を対象としたコミュニケーションまで様々なものが存在する。コミュニケーション学は、こうした様々な様態の情報伝達・交換を「コミュニケーションの視点」から、統合的に取り扱う。各々のコミュニケーション理論・技法には、独自の性質と、コミュニケーション理論・技法に共通する性質がある。著者は、コミュニケーションを、

「伝える」、「わかる」、「感じる」という言葉で表現するようにしている。どのように「伝える」か、どのように「伝える」と「わかる」かということは、コミュニケーションの重要な研究課題である。医学・医療の分野で、特に重要な行動変容につなげていくには、「感じる」の要素である。「感じる」とは、「洞察」、「納得」、「了解」、「腑に落ちた」等の言葉で表現される、単なる「わかる」以上の感情面での了解である。

ヘルスコミュニケーション学の教育は、欧米においても、教える側が得意な分野（対人コミュニケーション、メディアジャーナリズム、ヘルスキャンペーン等）に偏って、教育が行われていることが多い。そして、そうした事情を反映して、ヘルスコミュニケーションの教科書も著者が得意な分野を中心に記述されているこ

とが多い[3][4]。de Pre による教科書は、様々なヘルスコミュニケーションの分野を考慮した数少ない例である[5]。Handbook of Health Communication は、教科書というよりは、研究の発展状況を記載した総説であり、各分野のバランスは配慮してあるが、教科書として使うには、内容が難しく、分量も多すぎる[6]。著者らは、対人、メディアコミュニケーションのバランスの取れた日本における標準的なカリキュラムをつくるべく、試行錯誤を続けている。

3.2 医療コミュニケーション学輪読会・抄読会

輪読会・抄読会には、共同で書籍、論文を読み、議論を行うことによって、お互いの理解を深める効果がある。ヘルスコミュニケーション学に関する学問的な輪読会・抄読会は、日本ではわずかな大学等で実施されているのみであり、貴重な機会と考えている。

文献

- [1]園田由紀(訳). MBTI への招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開. 金子書房; 2002.
- [2]折笠秀樹、折笠奈緒美. どう読む?新聞の統計数字. ライフサイエンス選書; 2006.
- [3] Northouse PG, Northouse LJ. Health Communication: Strategies for Health Professionals (3rd Edition). Prentice Hall; 1997.
- [4] Schiavo R. Health Communication: From Theory to Practice. Jossey-Bass; 2007.
- [5] du Pre A. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. McGraw-Hill; 2004.
- [6] Thompson TL, Dorsey A, Miller K, Parrott R, editors. Handbook of Health Communication. Lawrence Erlbaum; 2003.